



住宅金融公庫総裁賞

講評： 築34年のマンション。施主夫妻は10年ほど暮らしていたが、子供の就学を機に全面リフォームした。もとは3DKであったが、ユーティリティ以外は一体化し、広がり明るさのある、風通しの良い空間となっている。設計者はご主人の同級生である。

バルコニーからの光と、それを反射するナラの無垢材フローリングの柔らかな色合いが明るく優しい。造作家具の一つであるスタンド型照明は直天井なため、壁と床からの配線に対応するよう設計したものである。

居間横の板敷きの寝台は、居間との一体感を保ちつつ、板の材質と張り方のパターンを工夫して普通の板の間風ではない洒落た感じがある。寝台の下は収納だが、市販の透明なプラスチック収納ボックスを列車のように連結し、物の出し入れを便利にする工夫がある。窓際は斜めに張り出した空間を活かした小さな書斎スペースで、寝台の縁を椅子代わりとし、書斎道具一式を造作した机に収めたため、すっきりと居心地よい空間になっている。

広がり確保する工夫の中でも出色は、ユーティリティを囲う“明かりスクリーン”である。これは水回りと居間との間に設けられた木とガラスのスクリーンで、柔らかな拡散光が大きな照明のように広がっている。キッチンと居間と仕切りつつも上部を開けているので、部屋の中の部屋のように見え、水回りを狭く感じさせていない。洗面所の出入口脇ではガラスの裏側にランプを設けるなど、明かりスクリーンの連続性に配慮しているし、キッチンと洗面所の間は色付半透明合わせガラスにしているので両側で採光し合える。

この家の特徴のひとつに、各人の落ち着く居場所が確保されてい

ることがある。最も良く現れているのが小学生になった子供のスペースである。完全に個室化はしていないので、常に子供の気配は感じられる。居間側から子供ベッドの下を潜って出入りするが、成長後は玄関脇から出入りできるように考えられており、子供との適度な距離感が計画されている。

もう一つの特徴は、家具工事専門の会社による施工で、空間の完成度がさらに高められていることである。設計者の繊細なこだわり、さまざまなアイデアや工夫は、家具レベルの正確な造作工事によって現実化し、65㎡が見事に再構築されている。その工夫は押しつけではなく、家族の要求が丁寧に細かく汲みとられており、温かみある空間に仕上がっているため、訪れる者に爽快感を与えてくれる。洗練された空間である。



リフォーム前後の写真



①改修前居間



②改修前キッチン



③子供スペースへの潜り



④ベッド監建具も開放し通風



⑤ガラス越しにキッチンから光



⑥キッチンの内法上部は開放



⑦書棚の可動落下防止棒



⑧子供用書棚とベッド



⑨寝台窓際のデスク



①リビング・ダイニングから見ると大きな照明のように光る“明かりスクリーン”
左は収納を兼ねた寝台とその窓際にデスク



②ダイニング奥に子供スペースへの潜り。潜りの上部ベッド、脇の収納は家具工事で作造。直天井にしたため、壁と床からの配線に対応した照明にデザイン。



⑩洗面まで連続するスクリーン



⑪



検討用模型

リフォームの動機／設計・施工の工夫点／施主の感想 など

子供の就学を機会に、親子3人の生活に合った住居に全面リフォーム。子供スペースの確保、水回り改修、部屋に露出しないキッチン、必要な収納確保、清掃性、夜間の明るさ、その上で狭さを感じないことが求められた。

水回りの位置は大きく変えない条件で設計を開始。

しかし、改修前の洗面は光が暗く暗いため、キッチンと洗面には木とガラスのスクリーンを建て、光を行き渡らせた。

一方、リビング・ダイニングから見て、水回りがこのスクリーンで大きな照明のように光り、ひとつのまとまりとなって統一感を感じ

特に配慮した住宅性能：室内ガラスの安全性、家具の地震時の安全性（棚の書籍落下防止対策）、自然通気の確保、スキマ風防止、清掃・メンテナンス（使用材選定、照明のデザインと器具選定）、断熱性能（床・壁に基本レベルの断熱性付与）、将来変更の容易性（造作家具工事の多用）

データ

所在地	東京都三鷹市	構造／築後年数	鉄骨鉄筋コンクリート造／34年		
該当工事面積	64.5 m ² ／総工事床面積	64.5 m ²	該当部分工事費	987 万円／総工事費	987 万円
居住者構成	15歳以上65歳未満：2人／65歳以上：1人／15歳未満：1人／ペット：1人				
設計者	一級建築士事務所（有）加藤・橋本建築設計事務所	担当者	橋本 久道・山形 美津子		
施工者	木遊舎	担当者	木村 輝明		

リフォーム前



リフォーム後

